



瀬田の丘

創刊 1973年

編集・発行／カトリック瀬田教会信徒会広報部
東京都世田谷区瀬田 4-16-1



今日のみことば

2020年10月4日 年間第27主日A年

瀬田教会主任司祭 小西広志神父

第一朗読：イザヤ書5章1-7節

第二朗読：フィリピの信徒への手紙 4章6-9節

福音朗読：マタイによる福音書21章33-43節

今日のテーマ：主人の思い、神の思い

三つの朗読から

第一朗読にある「良いぶどう」という表現^{ひょうげん}に心を留め^とましょう。ぶどう畑の主人が植えたのは「選りすぐり」のぶどうでした。しかし、彼が望んでいたのは「ぶどう酒」がつくれるほどのごく普通のぶどうの実だったのです。主人の望みとは裏腹^{うらはら}に実^{みの}ったのは「腐った、酸っぱい」ぶどうでした。

第二朗読の「わたしから学んだこと、受けたこと、聞いたこと、見たこと」(9節)が響^{ひび}きます。パウロが示したのは、主イエス・キリストに基^{もと}づく生き方です。主イエス・キリストの生き方、あり方がわたしたちの生きる規範^{きはん}となります。キリスト者はキリストが生きたように生きるのです。

福音朗読にある「わたしの息子なら」という主人のことばは切実^{せつじつ}です。大事な息子を送ってでも農夫たちとの関わりを築^{かか}きたいぶどう園の主人の思いを伝えています。

説教

ぶどうの実^みが実^{みの}るまでは大変な労力が必要となります(第一朗読)。2節にはその様子^{ようす}が動詞で表されています。「耕^{たがや}し、のぞき、植^うえ、立^たて、掘^ほり、待^まつ」という動詞です。「愛する者」が丹精込めてぶどうを育てていることをこれらの動詞は表しています。ぶどう畑は実に手のかかるもののようです。そのことを示唆^{しさ}するために動詞が重ね^{かさ}ねられているのでしょう。そして、「主」の「ぶどう畑」とは、とりもなおさずイスラエルを示^{しめ}しますから、主なる神のイスラエルへの愛がここによく表されています。「良いぶどうを植えた」は直訳すると「選りすぐりの良いぶどう」の意味だそうです。「良いぶどうが実るのを」は「ぶどう酒やぶどう汁^つを造ることのできるぶどう」の意味だそうです。ですから、「愛する者」がぶどうを植^ねえて願^{ねが}ったのはごくごく普通のぶどうの実だったのです。しかし、実^{みの}ったのは「酸っぱいぶ

う」でした。これは「腐ったぶどう」の意味で、「悪臭を放つ^{はな}」という語源に基づく表現だそうです。

このような丹精込^{たんせいこ}めて育てたぶどう畑^おを惜しげもなく農夫に貸し出す主人が福音朗読に登場^{とうじょう}します。『わたしの息子なら敬^{うやま}ってくれるだろう』(37節)はお人好^{ひとよ}しの主人の姿^{すがた}を表しています。それはとりもなおさず、人間に関わり、人間に委^{ゆだ}ねていく父なる神の姿でもあるのです。

「ふさわしい実^{むす}を結ぶ」(43節)とはいったいどういうことなのでしょう？ 第一朗読ではぶどう園^もの持ち主^{ぬし}は主なる神、ぶどう畑はイスラエルの民^{たみ}を暗示^{あんじ}するでしょう。主が望^{のぞ}んでおられたのは「人間のすべての生活において、人間が幸福となる」という裁^{さば}き(ミシュパト)であり、「神と人との関わり、人と人との関わりが誠^{せいじつ}実に営^{いとな}まれる」という正義^{せいぎ}(ツェダカ)でしたが、人間の社会^{りゆうけつ}は流血(ミスパペ)と叫喚(ツェアカ)に支配^{しはい}されてしまったと現実世界を皮肉^{ひにく}ります。ふさわしい実^{むす}は結ばれていません。福音朗読では祭司長たちやファリサイ派がイエスさまのたとえ話を聞いています。農夫たちとはもちろん彼らのことです。彼らもお人好^{ひとよ}しの主人が送^{おく}った息子を敬^{うやま}っていません。これではどんなに神さまのことを知^しっていても、聖書のことばを知^しっていてもふさわしい実^{むす}を結んだとはいえません。

僕^{しもべ}を通して、あるいは最後に息子を通して、農夫たちは主人の思いと向き合わなければなかったのです。しかし、自分たちだけが、あるいは自分たちこそが救^{すく}われるという思い込みが、そのことをはばみます。こういった思い込みこそが、神さまと向き合^{むか}っていけない原因^{げんいん}となっているのではないのでしょうか？ 「送^{おく}った」、「送^{おく}った」と三回繰り返^く返^{かえ}されます。父なる神さまはわたしたち一人ひとりとつながりをつくらうとして「送^{おく}っ」てくださる方です。送^{おく}られたもの^{こた}に応^{こた}えることができますように。

